

大河原商業高等学校定時制通信

平成30年度 第5号

平成30年10月1日発行

発行者 教頭

○9月1日(土)「生徒のつどい」に参加してきました

9月1日(土)「定時制通信制生徒の集い」が松島自然の家を会場に行われました。県内の定時制・通信制高校から代表が集まり、本校からは生徒会役員の3年生渡邊政次君・赤間春菜さんと、同じく3年生の遠藤綾夏さんの3人が代表として参加しました。

当日はあいにくの雨で、予定されていた海での活動ができず、屋内での活動となりましたが、今年度会場校の東松島高等学校の皆さんが考えてくださった様々な企画により大いに盛り上がり、他校の生徒と親睦を深めることができました。参加してくれた3名の皆さん、大変ご苦労様でした。



○9月5日(水) 保健講話が行われました

9月5日(水)の3校時、本校養護教諭の鈴木保志乃先生を講師にお迎えして、「睡眠」をテーマとした講話をいただきました。

在校生へのアンケートから見えた本校生徒の睡眠の実態とその分析結果と共に、睡眠の仕組みや大切さ、よりよい睡眠を得るためのポイント等をお話しいただき、睡眠不足になりがちな生徒の生活実態に合わせた、日々を健康に過ごすために必要な睡眠の取り方についてわかりやすく解説していただきました。鈴木先生の和やかな雰囲気、生徒たちも睡眠について楽しく学んだ1時間でした。



○9月26日(水) 生徒会役員選挙が行われました

9月26日(水)の2校時、新しい生徒会長を決める選挙が行われました。3年生の渡邊政次君が立候補し、信任投票の結果、有効投票全ての信任を得て生徒会長に選ばれました。

渡邊龍真会長さんははじめ特に4年生の生徒会役員の皆さん、今まで様々な行事等で生徒会をけん引していただき本当にありがとうございました。そしてご苦労様でした。新会長率いる新生徒会役員の皆さん、これから生徒会をよろしくお願いします。



○9月25日(火)～28日(金) マナーアップ週間でした

9月25日(火)～28日(金)の一週間、マナーアップ運動が行われました。生徒会の生徒を中心に、始業前に校門や校門前の交差点に立ち、挨拶運動を行いました。参加してくれた生徒の皆さん、大変お疲れ様でした。

また、この期間中は、生徒一人一人が日常の生活や授業への取組みに関して改めて自らをふり返り、チェックシートに毎日記入しました。これをよい機会にして、学校生活の改善に努めましょう。



《今後の予定》

- 10月 2日(火)～5日(金) II期中間考査(追考査9日(月)・10日(火))
- 10月13日(土) 生活体験発表会(白石キューブ)
- 10月17日(水) 生徒会行事②
- 10月18日(木) 遠足
- 10月19日(金) 大商祭準備(全校制作作品作成)
- (10月19日(金)～20日(土) 大商祭)
- 10月22日(月)～26日(金) 授業公開②

今年度も半分が終わりました。みなさんはどんな半年間でしたか。よかったことは引き続き、だめだったことは反省を活かして後半戦に臨みましょう。空気もだんだん冷たくなってきました。10月には生徒会行事や遠足、文化祭など秋らしい行事が並んでいますが、その前に明日からのII期中間考査が立ちはだかっています。後半戦のいいスタートを切れるように、全力で突破しましょう。

今月の言葉

かけた情けは水に流せ
受けた恩は石に刻め

この言葉は、この夏山口県で行方不明になった2歳の男の子を発見して話題になった大分県の尾畠春夫さんが座右の銘にしているとおっしゃっていた言葉です。元々は仏教の経典にある「懸情流水 受恩刻石」という言葉で、「他者にかけた情け(与えた恩)は水に流して忘れる。他者から受けた恩は心の石に刻みこんで忘れてはならない。」という意味です。ところが、これがなかなか難しく、私たちはこの教えとは逆のことをしてしまいがちです。してあげたことばかり覚えていて、していただいたことは忘れてしまうのです。恩は受けた相手を感じる感謝の気持ちです。してあげた側が与えるものではありません。恩着せがましい心が生まれるのであれば積極的に忘れてしまった方が良く、何より大切なのは、していただいたことに対して、「ありがとう」の言葉と共に、その恩を石に刻むがごとくにけっして忘れまいとする気持ちなのだと思います。

友達に助けもらった。アルバイトに雇ってもらった。毎日の食事を作ってもらう。新生徒会長が選挙演説の中で話していたように、私たちの日々の生活の中には感謝しなければならない事柄がたくさんあると思います。その一つ一つを忘れず、何かの際には恩返しをする。その恩返しは直接その人にでなくても、社会全体にでもいいと思います。尾畠さんはそんな生き方を貫いていらっしゃいます。私たちもこんな風に生きられれば、自分自身も周りの人たちも、きっと心安らかに毎日を過ごせるのではないのでしょうか。